

「IDRC2017 併設の防災産業展 in 仙台」に出展しました（2017/11/26-27）

テーマ：田所研究室、および、ImPACT タフ・ロボティクス・チャレンジ
場所：仙台国際センター

2017年11月26日（日）、27日（月）の2日間、仙台国際センター展示棟において、「防災産業展 in 仙台」が開催されました。本展示会は、『世界防災フォーラム/IDRC2017』に併設された展示会であり、さまざまな防災への取り組み、機器展示などを行う目的で、日刊工業新聞社の主催で開催されたものです。

災害科学国際研究所 地域・都市再生研究部門 災害対応ロボティクス研究分野（田所研究室）では、田所諭教授がプログラムマネージャを務める内閣府 ImPACT タフ・ロボティクス・チャレンジ、および、同教授がインフラ・災害競技部門の委員長を務める経産省主催のワールド・ロボット・サミット（ロボットオリンピック）、NPO 法人国際レスキューシステム研究機構との協力の下、下記の展示を行いました。

- 瓦礫内の被災者を発見することを目的とし、福島第一原発内部調査でも使用された、能動スコープカメラの研究開発に関する機器デモンストレーション
- 災害救助犬の能力を飛躍的に高めることを目的とした、サイバー救助犬の研究開発に関する機器展示
- 福島第一原発の内部を国産ロボットして初めて調査した、Quince の研究開発に関する機器展示
- 災害を予防するために老朽化した橋梁を点検する、球殻ヘリの研究開発に関する機器展示
- 内閣府 ImPACT タフ・ロボティクス・チャレンジのポスター展示
- ワールド・ロボット・サミットに関するポスター展示



展示の様子

文責：田所諭（地域・都市再生研究部門）